

MIRAI 未来

2021年3月18日(木)
第314号

●発行所 『未来』編集委員会
〒577-0023
大阪府東大阪市荒本2丁目14-5
(06) 6781-3984
Eメール
mirai_newsroom@yahoo.co.jp
●発行人 山本 康

●第1・3木曜日発行
●200円(本体182円)
●定期購読 購読料(送料別)
1月 400円(送料188円)
半年 2,400円(送料1,128円)
1年 4,800円(送料2,256円)

今号の主な内容

琉球遺骨返還訴訟
百按司墓の見分を要求 2

沖縄・奄美
島唄の向こうに(上)
軍事クーデターに
抗する民衆 3

「GIGAスクール
構想」前倒し 4

私のジェンダー考(1)
関電原発マネーの間 5

トガシさん
「沖縄便り」⑥ 6

広域一元化に抗議

「人間の鎖」で市役所包囲

2月25日
大阪市

2月25日、大阪カシノ ナ対策優先」などを訴
に反対する団体懇談会の え、約400人が参加し
呼びかけで、「広域行政 てヒューマンチェーンが
一元化条例案反対、コロ おこなわれました。この
条例案」を提案しました。この



大阪市議会の開会日に400人が包囲(2月25日)

平日の昼とあって、が一時間近くおこなわ
どれほどの人が集 れ、正午からヒューマン
まるのかと心配で チェーンに取り組みまし
したが、杞憂に終 た。12時過ぎに市役所包
わりました。 コロ 囲が完成しました。コロ
仕事などで都合 がず、幟やバナーなどの
がつかずに参加で 端を持って間隔を空けて
きなかった人も多 取り囲み、ウェーブも。
かっただろうと考 えるも、もっとた
くさんの人が住民 投票の結果を踏み
にじり、大阪市を 乗っ取ろうとする
維新政治にたいし て怒っていること
でしょう。それを 松井市長は思い知
るべきです。 午前11時から市
役所の四つ角でマ

民主主義が危ない

大阪カシノに反対する
団体懇談会代表の桜田照
雄阪南大教授は、「広域
一元化条例第2条の基本
理念には、ありもしな
い『二重行政を失くす』
や法律に定めのない『副

長年にわたって勝ちとっ
てきた戦後地方自治にお
ける民主主義を根底から
覆されようとしています。
それが広域一元化条例の
最大の問題点です」と警
鐘を鳴らしました。

「あかん！カシノ女性

区民がないがしろに

首都を目指す」の2つが
書かれています。二重行
政解消と副首都で大阪の
成長を成し遂げるとい
うのです。大阪の成長は経
済成長だけではありません
ん。まったく内容のない、
どうにでも使えるような
『目標』を並べ、自分た
ちの都合のよいように行
政を動かすために、議会
を黙らせる。これが維新
政治です」と話しました。
そして「私たちの先輩が
選挙で大阪市長の首を取
るために力を尽くす」と
あいさつ。

生野区の舎利寺連合振
興町会・猪股会長は、生
野区で進む小学校つぶし
に触れ、「区民をないが
しろにする維新と公明党
の政治に怒りをぶつけ、
力づくの政治ではなく、
市民と語りあう政治を作
るために力を尽くす」と
あいさつ。

市民団体が街頭で訴え

3月6日、どないする
大阪の未来ネットと戦
争あかん！ロックアク
ションが大阪市阿倍野区
のあべのキューズモール
前で連続して街頭宣伝。
可能になる仕組みだ。

福島地裁 子ども脱ひばく裁判で不当判決 「国、県に責任なし」と強弁



「子どもをすべて棄却。
守らないで この裁判は、原発事故
未来なんてな 後、子どもたちを被ばく
い！」、3月1 の危険にさらした国と
日、子ども脱被 福島県と県内の市町を
ばく裁判原告 相手に、6年前、福島県
団長・今野寿美 の親子200人が提訴
雄さんの声が したものの。①(市町には)
福島地裁前に 「安全な環境での教育」
響きました(写 を、②(国と福島県には)
真)。裁判所は 「子どもたちに無用な被
原告の訴えを ばくをさせ精神的苦痛

を与えたことへの損害賠
償」を求めました。

事故の責任追求の裁判
は各地で起こされていま
すが、事故後の行政の対
応を問うのは初めて。

判決は、①は門前払い。
②については「SPEED
DIを公開しなかったの
は当時の運用指針通り」、
「子どもたちを集団避難
させなかったのは、当時
の防災基本指針に合わせ
た」、「被ばく許容範囲20
μSv/時はICRPの
国際基準に合致」。ゆえ
はフェスブック「子ども
脱ひばく裁判」で。

新しい紙名を募集します

みなさんから、新し
い紙名を募集します。
応募は本紙編集委員
会で受け付けます。

その予算が膨大に膨れ上
がって、破綻しています」
とアピールしました。

(池内慶子)

琉球遺骨返還訴訟

むむじやなばか 百按司墓の見分を要求 京大のずさんな遺骨管理



京都御苑で報告集会 (2月26日)

明らかにしていない。原告側は「裁判官と一緒に京大に行き、保管状況を見てほしい」という申し立てをおこなった。

また京都帝国大学助教授・金関丈夫らが遺骨を盗掘した沖縄県今帰仁村にある百按司墓が、どう

人種主義による盗掘

風葬されているのかを見分けるように要求した。裁判所の京都大学にたいする態度は、「名簿はどうなっているのか。次の期日までに提出してほしい」というところにとどまっている。

琉球遺骨返還訴訟の第8回弁論があり、その後、報告集会があった(2月26日、京都地裁)。報告集会では、弁護団から琉球遺骨返還請求訴訟の支援全国連絡会から、この日の訴訟目的について提起があった。

裁判所に見分を要求

京都大学は博物館、資料館に保管されている遺骨の保存状況、名簿等を



京大のゴミ集積所から見つかった人骨を納めた木箱 (2月26日の報告集会にて)

京都大学は博物館、資料館に保管されている遺骨の保存状況、名簿等を

から返還された63体の遺骨をめぐり、墓に返すために取組みをおこなっている。3月21日、沖縄県立博物館で、1903年の学術人類館事件(注)を問い直すシンポジウムをおこなう。この問題は終わっていない。日本人類学会は、京都大学に『遺

琉球民族は先住民 京都で支援集会

2月25日、京都市内で琉球遺骨返還請求訴訟と琉球人遺骨保管住民監査請求を支援する集会が開かれた。住民監査請求は、沖縄県教育委員会が、イヌ民族の遺骨を盗掘した。帝国主義の時代、自分たちからみて下にみた人の人骨を調べることが通して、いかに自分たちが優秀であるかを研究してきた長い歴史がある。それが歴史だけならいいが、まだ続いている。こういう裁判をしなければならぬという問題に直面している。近代を問うかけるきかけになる。裁判は大変なエネルギーを必要とする。支援が大事だ」と話した。

また2014年に、京都大学のゴミ集積所から人骨を納めた木箱(写真)が見つかった。木箱には、「奄美」大島郡喜界村赤蓮」とかかれてい

骨を原告に返すな」という要望書を出している。琉球人の尊厳よりも研究を優先させるもの。シンポジウムはこの問題をえぐりたい」と話した。次回の弁論期日は5月21日(金)に決まった。傍聴を呼びかけたい。(高崎庄一)

遺骨が眠る土基地に使うな ハンストで抗議1週間

沖縄県名護市辺野古で米軍基地の埋立てに使うことが人間として許されるのか」と話す。昨年4月、防衛省の提出した設計変更申請書で、県内で遺骨収集を砂のうち7割にあたる約3160万立方米を沖縄本島南部から調達できるとしている。

大浦湾側の軟弱地盤によって新基地建設が不可能になった。政府は「設計変更」ではなく、「工事を中止を判断すべきだ。遺骨が眠る土を使っている」というのだ。

焦点

米バイデン新政権と世界(下)

西田太一

の後のグローバリゼーションの急進展は、資本主義を擁護する人びとにとってはまさに福音であった。米国の国際政治を深めていた。それでは、大統領選挙の結果から見てきた、トランプ支持者たちの意識に注目した。彼らは世界の動きから目を閉ざし、内向化を深めていた。それでは、

森喜朗発言につづき、山田真貴子前内閣広報官問題は、ジェンダー・ギャップ指数が世界153カ国中121位という日本の現実を衝撃的に突きだした。「わきまえない女」の怒りの声が澎湃とおこり、「飲み会を絶対に断らない女」が高官の座から転げ落ちた。女性解放を求めてきた者として、忸怩たる思いで半世紀をふり返った。

女性保護規定をなく奪

1970年前後から、政府・財界は生理休暇などの女性保護規定をなく奪する労働基準法改悪を繰り返した。女性保護と女性への身心を劣悪な労働条件から守る《権利》だが、女性の中でも電電公社(現NTT)の管理職になった影山裕子氏が旗振り役になり、「保護は平等の足かせ」という論を振りかざし、改悪を推進した。生理休暇取得を闘い続けてきた総評婦人部は「保護も平等も」と、強く反対。多くの女性グループ・団体が共に立ち上がった。

リブ運動のうねり

60年代からのリブ運動の国際的うねりを受け、

75年に国連による国際婦人年がひらかれた。平等の声の高まりに、「保護≠平等」要求へと軸足を移していく。85年、日本政府は女性差別撤廃条約を批准(72カ国目)するが、平等政策は採らず、保護剥奪と差別的搾取を強化するために、労基法改悪―雇用機会均等法制定、労働者派遣法をセッ

トで持ち出し、86年施行。国鉄の分割民営化―総評労働運動つぶしと軌を一にするもので、戦後労働法の根本を崩し、今日の非正規・貧困問題の起点となる攻撃だった。が、大きな反撃はできず無念の思いが残る。その後、度重なる保護規定の剥奪、女性は危険有害業務や深夜業や無制限の残業に狩りだされていく。男性の半分以下の賃金水準、家事・育児の重い負担は変わらず、職場ではセクハラ・パワハラがつきまとう。やがてパート・派遣などの不安定雇用が正規職の肩代わりをさせられていく。

私のジェンダー考(1) 立川てるみ

山田流ジェンダーギャップは埋められぬ 非正規雇用無くしてこそ

「指導的地位」につく女性はずばずばかり増えたりと多くの犠牲の代償であり、女性間の格差・分断を拡大する要素でもあった。ちなみに先の山田真貴子氏の入省は84

1978年制定の男女平等法で、公的機関における男女割合を一定比率で割り当てるクォータ制を明記。世界へと拡大していく。

日本での保護剥奪をめぐる攻防は続くが、フェミニズムと労働運動の後退の過程で、「保護≠権

原発は人災、政策転換を

3月6日 大津市で、びわこ集会



3月6日、「原発のない社会へ2021びわこ集会」が滋賀県大津市内で開かれ、500人が参加した(写真右)。

集会では沖繩から「せやろがいおじさん」がトーク。菅政権をユーモアたっぷりに手厳しく批

判。菅首相は、国民をごまかすために「きずな」という言葉をよく使う。でも、自助・共助・公助として絆の本当の意味は、自民党と公明党は助けるけれど、そのことに

さん。平尾市長は、「人防を説明。昨年12月の大類と核は相いれない。原発事故は人災。まちがった国のエネルギー政策を変えなければ」と訴えた。井戸謙一弁護士は基調報告で、原発をめぐる攻

「危険だから止めた」

元裁判官・樋口さん 樋口さんによれば、原発差し止め判決を出した元裁判官の樋口英明さん。裁

3月7日、大阪市内で、一年ぶりに「さよなら原発・関西アクション」が開催され、コロナ禍にもめげず、たくさんの方が集まりました。今年も日本大震災から10年目。それにふさわしい節目の集会となりました。

関電原発マネーの闇

福井県民会議 宮下正一さんが語る

の原発マネーの不正還流」について話した。宮下さんによれば、「福井県内では、関電の原発マネーが不正還流している」といううわさがかなり以前からあったという。2018年1月には金

おり、9月に調査報告書を出していた。しかしこれらは外部に完全に隠されていた。19年6月に「関電よくし隊」と称する、関電の内部をよく知る関係者たちにかかわらず、1年

関電は役員ら20人が高浜町の元助役・森山栄治から「3億2千万円に相当する金品を受領している」と公表し、謝罪した。関電は内部調査によって、金品受領の事実を前年の9月にはつかんできたにもかかわらず、1年間、隠し通していた。内



総会では、「若狭の原発を考える会」の木原壮林さんが、「老朽原発う

まい・しよっと (2)



ひとを待つベンチ 撮影：阿手類

※このコーナーではみなさんの写真を募集しています。応募は本誌編集委員まで。

長崎県内の話題に入る前に、やはりこれだけは今、ふれざるをえない。ヤンゴンでは40人近い死者が出ているという(3月3日)。ミャンマーの国内事情や政治的・経済的背景は詳しくないが、はっきり言って、国軍は自ら墓穴を掘っていると思う。人民を敵に回して延々と独裁を続けられた例を知らない。

高額「接待」問題 これも、長崎から言わずにはおけない。一人7万4千円の会食の山田内閣府広報官。買収ではないか。彼女の広報官としての報酬は月額117万5千円。私たちが

判決は7月5日。被爆者の築城昭平さん(93)は意見陳述で「戦争がほとんど近づいていない。悲惨な目に遭うのは一般国民だ」と訴えた。原告団長の川野浩一さん(81)は「二度と戦争訴訟。3月1日、長崎地裁は請求棄却。原告側は控訴の意向。宮地昭原告団長(93)は報告集会で

県内の2つの訴訟

脇田和也(非正規雇用労働者)



命の危険な状況下で果敢にたたかっている。「軍事独裁」下の生活を拒絶し、職場を放棄して闘っている。日本国内でも東京・大阪・福岡などで立ち上がっている。勇気ある彼らにエールを送りたい。勝利はあなたたちのものであると!

原告の人たちは、集団的労働者感覚からすると法外である。ちなみに、生活保護の生活費は月額平均7万5千円前後だ。菅ら政府官僚や政治家(国會議員)の金銭感覚はかい離している。コロナ対応においてピント外れなものもそうだ。こんな人たちが起らないよう、裁判長は問題を直視してほしいと力を込めた。支援者の、飯島滋明・名古屋学院大教授は「裁判所は政府ではなく人民のためにある」と語った。関係者からは「被爆地の思いを受け止める判決を」ときた。(3月2日)

短歌

労働者放り出されて個人事業 世の中変えるプレカリアート 人の性は寄り添いなれど

川柳

要りませんワクチン接種医師いない 無医村や、24時間365日ひとり医師が地域医療を支える地域は少なくない。そこへ「市町村はワクチン接種計画を立てよ」の国の指示。ワクチンは恩恵どころか重荷に。(ひらら)

トガシさんの「沖縄便り」

住民、兵士の遺骨が残る地

辺野古埋め立て土砂の南浦激戦地の、まだ遺骨が収集されていない場所から採掘する計画に、県が不許可を出すようにと要請するハリストがおこなわれました。

魂魄の塔の近くから

地域は、糸満の「魂魄の塔」近く。「東京の碑」有川中将以下将兵自決の壕」もあります。有川中将は石部隊所属、調べる

第62師団(石部隊)の碑文から自書の経緯がわかりました。第62師団(石部隊、8300人)は嘉数高台、前田高台などの激戦で多くの死傷者を出し首里に後退します。そこで最後

土砂に混じる遺骨

辺野古へ埋める土砂採取は、有川隊将兵自決の壕の近くから62師団が後退しつつ戦った八重洲、与座岳から喜屋武岬にかけた一帯がかなりを占めます。住民の遺骨ばかりではなく、日米将兵の遺骨がまだ散乱している所です。風化した



糸満市の土砂採取予定地(ブログ「チョイさんの沖縄日誌」より)

遺骨は、一見しても土砂と見分けが付きません。柩とのたまたまいであり、「表土からは採取しない」と言っても難しいので、それなのに、政府は業者の言のまま「注意を払ってやるぞうだ」と言っている。「熊野鉦山」社長は和歌山県出身、自

人としての問題

「採掘届の書類が十分なら、受理しないわけにいかない」というのが、県庁担当部局の見解で

イベント紹介

- 3月20日(土・休) 関電よ 老朽原発つごかすな! 高浜全国集会
3月28日(日) 五輪反対集会 五輪より命 コロナ感染危機を共に生き抜こう!
4月4日(日) 民衆の国際連帯で東アジアの平和をめざす 4・4円山集会